目を覚ましたら。

奥田徹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

目を覚ましたら。

【コード】

N0489U

【作者名】

奥田徹

【あらすじ】

僕は突然の睡魔に襲われ、目を覚ます度に、その原因に近づいていった。

電車の中で寝てしまう事はよくあったが、エレベーターの中は初めてだった。

エレベーター内は僕以外、五人。

僕は座り込んだ状態で眠っていて、ウワツと奇声と共に

ビクツと体を震わせ目を覚ました。

カゴ内の人が一斉に僕に顔を向けたが、またすぐ何事も無かったように、階数表示に目をやった。

僕の周りは電車内の嘔吐物を避けてる様に、

一定の空間が出来ていて、

その距離を保つ形で僕の存在に蓋をしていた。

2

僕は慌てて立ち上がり、

その集団の一員に参加し、

何事も無かったかの様に

階数表示を眺め、

一階に到着するとエレベーターを降りた。

そこは自宅マンションのエレベーターで

時計を見ると、朝の7時5分。

家を出てから乗りこんだエレベーターで5分程眠っていた事になる。

その後、眠気と戦いながらバス停に立ち、

バスに乗り、駅の改札を抜け…。

と、今度は駅のホームで目を覚ました。

そこには駅員が見下ろす様に立っ

「お客さん、大丈夫ですか？」

「え、あ、すみません…。」

朝のラッシュ。沢山の人が僕を避けながら通り過ぎる。

僕は立ち上がり、怪訝そうな駅員に

お辞儀して、到着した電車に乗り込んだ。

すし詰め状態の電車で体を押し潰されそうになる。

電車の窓は乗客の熱で曇り、

前の人の頭が僕の顔の前で臭いを放ち、

腹を押され、オナラを我慢していると、異常な眠気が体中を蝕み…

見知らぬ駅のホームのベンチで

ビクンと右足が抜けるように引つ張られた感じで、

目を覚ました。

「え…。」

電車ですべてを忘れてしまい、誰かにベンチへ運んでもらったのだろうか？

時計を見たら、九時半。

かなり眠っていた事になる。

会社は遅刻だ。

慌てて携帯を取り出し、会社に電話をかけたが

繋がらなかった。

まあ、しょうがない。

第一、急ぎの仕事など無いのだ。

繋がったら休暇を貰おう。体は限界に来ている。

急に余裕が出来た気になった。

取り合えず、

この異常な眠気を何とかしたい。

しかし、この田舎駅は何処なのだろう？

確か三鷹から中央線に乗り、普通に考えれば東京方面に着いたはず
…。

僕は、ホームを歩き、駅名が書かれた看板を探すが、
見つからず、

よく見ると、駅は駅だが使用されている形跡は無く

柱は錆び、コンクリートははげ落ち、

雑草が辺りを覆っていた。

廃墟。

僕が寝ている間に、

一体何が起きたと言っのか？

取り合えず、駅を後にしてこの場所が何処なのか探ろうと歩き出した。

田んぼが広がる長い道。

大きな山もなく、ただただ一面に田んぼ。

水が引かれ、植えたばかりの苗がテカテカ揺れる。

それは僕の故郷を思わせる光景だった。

二キロ程歩いた先に小さな土手があり、少年が寝ていた。

少年は十歳ぐらいで、シャツに短パンのラフな格好。

靴を脱ぎ、裸足で体を丸める様にし、スヤスヤと寝ていた。

僕はその光景が余りに穏やかで、懐かしく、

自由な事に一種の憐さを感じ、

足が震えてる事に気づく。

ゆっくりと少年に近づき、顔を見る。

それはやはり僕だった。

僕は少年の横に、音を立てない様、
慎重に座り、その寝姿を眺めた。

少年の頃、この土手で寝ていた時、母が死んだ。
逆走したトラックが突っ込んできて、母の乗っていた自転車を巻き
込み、
即死だった。

運転手の居眠りが原因だった。

あの日、目を覚ましたら世界が一変していた。

「目を覚まさなくていい」

寝ている少年の頃の僕の顔を眺めながら、
小さな声で語りかけた。

このまま寝ていられたら。

再び睡魔に襲われる。

僕は土手に体を預け、目をつぶった。

目を覚ました時、
また世界は変わっているのだろう…。

(後書き)

正統派のショートショートを書くとしたんすが、落ちありきで書きはじめると、書いててつまらなかつたので、こんな話になっちゃいました。

最初は

悩み「眠ってしまう」 医者に運ばれ 開発中の新薬の実験台に
化学兵器によって世界中の人間が睡魔に襲われ寝ちゃう 主人公、
薬が効き一人寝れない。悪夢のような世界 今の悩み「ゆっくり眠
りたい」
でした(< | >)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0489u/>

目を覚ましたら。

2011年10月9日03時15分発行